

「食」を取り巻く課題

本文『第2章「食」を取り巻く現状と課題』の課題をまとめたものです。

(1) 家庭における課題

食習慣は子どものころからの生活習慣が基本です。子どもを生み育てる親世代に朝食の欠食などの不規則な食事の増加、肥満や生活習慣病などが見られ、親の食に対する正しい理解が不足しています。

家庭は食の楽しさや大切さなどを身に付ける重要な場です。家族そろって楽しく食事することや食について学ぶ機会が減ってきています。

食事の作り過ぎや個人の嗜好による食べ残し、食品の消費期限や賞味期限切れなどによる廃棄が見られます。

家庭で調理することが減り、家庭の味が失われつつあります。家庭での調理や食事を通して得られる食卓の重要性を認識する必要があります。

外食・中食の利用が増加しています。栄養バランスを考え、上手に利用する事ができるよう心がけることが必要です。

食が米を中心とした「日本型食生活」から洋風化し、日本の伝統的な和食のよさが食生活に生かされなくなってきています。また、核家族化に伴い食に関する知識等が伝承されにくくなり、行事食、郷土料理などを作る機会が減少しています。

(2) 学校・保育所等における課題

学校や保育所、幼稚園においては、子どもにとって望ましい食生活の実現と健全な心身の成長を図ることが大切です。

給食は子どもたちが食品の種類や栄養について学ぶ大切な場となっており、給食に地場農産物を使用し、「生きた教材」として活用することが求められています。

食に関する様々な体験や地域との交流などを通して、食の大切さや望ましい食習慣等について学ぶ機会を取り入れる必要があります。

(3) 地域における課題

食生活の改善に関する人材の育成を図り、地域におけるボランティア活動の一層の推進を図る必要があります。

地域の飲食店等における栄養成分表示の普及など、食にかかわる関係者が、食育の推進に向けて地域と連携して取り組む必要があります。

(4) 安全・安心な食の確保に関する課題

食の安全性や信頼性を揺るがす問題が発生しており、消費者の食に対する不安や不信感が高まっています。

食に関する多くの情報が氾濫している中で、消費者にとって何を基準として食品を選択してよいのか判断が難しい状況にあり、適切に選択するための知識の普及と正しい情報の提供が求められています。

食品の生産・流通・販売に携わる生産者や食品関連事業者には、安全に対する知識と技術の習得、原材料の安全性の確保、自主検査の実施などが求められています。

消費者は、家庭内での食中毒の発生防止等の観点から、食品の安全性の確保に関する知識と理解を深めることが必要です。

(5) 農業・食品関連産業等における課題

地元で生産されている食材、食料品とそれらの優れた点、さらには、農業や食品関連事業者等の努力などがあまり知られていません。

消費者との交流や体験活動を通して地場の食材や食料品の生産から流通・消費に至る過程を市民が知り、農業や食料品製造業など地元産業への理解と愛着を深めることが大切です。

地元で生産される良質な農産物や加工食品等がより多くの市民に享受され、親しまれることが必要です。

(6) 食に関する情報提供等における課題

食に関する情報が氾濫する中、食品に関する表示の見方や安全な食品の選び方などの判断にとまどうことがあることから、適切に情報が提供できるよう環境の整備を図ることが必要です。

関係機関・団体等が食に関する普及啓発活動やイベント等を行っていますが、それぞれの取組がより効果的に行われるためには、情報を共有しながら連携し取り組むことが必要です。

食育を効果的に推進するために、地域の団体やボランティア等が連携して活動することが大切です。